

科目名	作業療法評価学 (身体・老年期障害)	担当教員	山田 恭平 ※印は実務経験のある教員を示す。			
-----	--------------------	------	---------------------------	--	--	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	1年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR12AE	①、②、③					

科目概要	作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を考えるために欠くことのできないものである。そこで、本講義では身体および老年期障害領域における評価の過程・手段・目的について理解を深め、対象者の全体像を把握するために必要な国際機能分類 (ICF) 分類について学習する。
学習目標	① 作業療法評価の過程・手段・目的を理解する。 ② 国際機能分類 (ICF) 分類による生活機能・障害の捉え方および統合解釈について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	評価学総論	作業療法評価の目的・意義・手段・過程	作業療法評価の目的・意義・手段・過程について理解する。	
2	国際機能分類	国際機能分類 (ICF) の概念、用語、生活機能 (障害) の捉え方について	国際機能分類の概念、用語、生活機能 (障害) の捉え方について理解する。	
3	検査・測定 1	関節可動域測定の基本的な検査・測定について	ROM 検査・測定の概要を理解する。	
4	検査・測定 2	筋力検査の基本的な検査・測定について	MMT 検査・測定の概要を理解する。	
5	面接・観察 1	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について理解する。	
6	面接・観察 2	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について理解する。	
7	評価の流れ	トップダウンとボトムアップアプローチ	トップダウンとボトムアップアプローチについて理解する。	
8	事例検討	ICF に基づく事例を通した全体像の理解	事例を通して、ICF の理解を深める。	
評価方法		筆記試験 50%、レポート 50%		
課題に対するフィードバック		講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。		
教科図書		隈元庸夫・編『臨床 ROM 測定からエクササイズまで』ヒューマンプレス 津山直一・他 (訳)『新・徒手筋力検査法 原著第 10 版』協同医書出版社、2020 年		
参考図書		『図解作業療法技術ガイド』文光堂 『DVD Series2 PT・OT のための測定評価 形態測定・反射検査』三輪書店 『神経診察クローズアップ』メジカルビュー社 『作業療法評価学 第 3 版』医歯薬出版		
学習の準備		1. (予習) 次回の範囲について教科書、資料などで確認し、用語等を確認する (60 分) 2. (復習) 講義内容について提示したワークブックを使って復習をする (120 分)		
オフィスアワー		火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時、その他在室時はいつでも可能		

担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	
-----------------------------	--